

福祉サービス第三者評価 結果概要

福祉サービス第三者評価は、専門的な評価者が当センターの福祉サービスの提供状況を観察、面接して評価し、当センター自らサービスの質の向上を図るために実施しています。

二十五年度の評価は、「NPOサービス評価機構」が行いました。評価は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やご家族の皆様・職員のアナケト結果なども評価の参考に

していただきます。ここでは、全体の評価講評について報告します。まず、入所では特に良いと思う点で、一、積極的な外出活動の実施、二、積極的なボランティアの受け入れ、三、第三者の客観的な視点を入れた施設運営が評価されました。次に通所では、一、バスハイクや延長療育などの実施、二、家族への支援も含め利用者の生活全体を支えている、三、家族との連携に努力し

ていることが評価されました。また、さらなる改善が望まれる点として、災害時の事業継続計画（BCP）の策定、職員の定着化、地域との交流に向けた一層の取り組みなどが求められました。

今後、この評価を踏まえサービスの改善に努めてまいります。なお、詳細については、外来、病棟でファイルが閲覧できます。また、インターネットから「福祉ナビ」でもご覧いただけます。

東京都重症心身障害児（者）在宅医療ケア体制整備モデル事業

この事業は、医療ケアを必要とする重症心身障害児（者）の方々が安心して、住み慣れた地域で在宅での生活を送れるように、診療に関わる医療機関のつながりを強化し、また障害に対する理解をより深める活動（研修会など）を行うことにより、将来的には、在宅で生活する重症心身障害児（者）の方々を診療するか

かりつけ医を増やしていく取り組みです。事業の一環として、地域の医療機関へのアンケート調査や地域中核病院、地域のかかりつけ医をメンバーとして連絡会を行いました。また、二月二十八日には東京都立墨東病院副院長の渡邊とよ子先生を講師としてお招きし、「地域支援の課題と重症心身障害児（者）



当センターで開かれた研修会の様子

の医療ケア」研修会を当センターで開催しました。この事業を通じて、地域の障害児（者）の方へ有益な情報発信や、診療に関わるより良い連携体制が構築できればと考えています。

平成二十六年 事業計画

平成十七年十二月一日に開設した東部療育センターは、今年の十二月には十年目に入ります。また今年度は、「全国重症心身障害児（者）を守る会」が東京都から受けている指定管理者の期間が年度末で一旦満了となる節目の年です。開設以来、特に手厚い医療ケアが必要な超（準）重症児（者）の積極的な受入れや地域の中核的療育施設としての使命を果たしてきました。

今年度は、当センターがこれまで行ってきた事業全般について評価検証を行い、次期指定管理の継続に向けて準備を進めていきます。

◆【入所・入院】
長期入所九十床、短期入所二十四床、医療入院六床で運営し、病床利用率九十三・三%を目指します。医療安全に努めるとともに年齢や成長に合わせて生活の質を高める療育を行います。個性に合わせて工夫を凝らした外出活動やプール活動なども行っています。

◆【通所】
一日当たり成人三十人、乳幼児五人の定員で、健康の維持向上と個性に合ったサービスを行い生活の幅を拡大するように、日々の活動や外出活動を充実させます。成人の送迎バスは六台で運行し、安全な送迎に努めます。



十年目に向けて「最も弱いものをひとりももれなく守る」

◆【外来】
一日百人で運営し、在宅の障害児（者）の治療、リハビリなどを行います。また地域の医療機関と連携しMRIの有効活用も図っていきます。なお、歯科診療では全身麻酔による治療も行っています。

◆【地域療育支援】
療育相談や地域の関連施設と連携して技術支援などを行うほか、プール、おもちゃ図書館、プレイルームなどの施設開放を行います。また、広報紙やメールマガジンなどを通して情報発信もしていきます。

このほか、感染予防、虐待防止、防災対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頃から利用者の安全確保を図れるよう対策を講じていきます。また、ご家族や地域の関係機関、第三者等から広くご意見を伺いながら、センターの運営向上に努めていきます。

院内研究 発表会



有馬院長と受賞された皆さん（右から有馬院長、三宮さん、岸野さん、井手先生、田中さん、中沢さん）

平成二十六年三月十二日に第六回院内研究報告会がありました。審査の結果、

最優秀賞「誤嚥防止目的のスピーチバルブを安全に装着する為に」
岸野 亜矢子さん
井手 秀平先生
優秀賞「重症心身障害者への絵本読みに関する一考察」
中沢 真実さん
敢闘賞「手指衛生指導の取り組みと現状について」
田中 彩子さん
特別賞「経営栄養試行中の利用者に対する味覚刺激への反応」
三宮 美由紀さん

ボランティア紹介

当初は皆様ほどのような演奏をお聞かせできるかも不安でしたが、皆様の明るさと何か強い気のようなものに助けられ演奏活動を続けさせて頂いてありがとうございます。また、ただ聞いて頂くのではなく、皆様と一体感を実感できる演奏会を心



津軽三味線奏者 小島 正資さん（左）
バイオリン奏者 玉城 愛子さん（右）

がけております。今後につきましてもできる限り演奏を続けていくのはもちろんのこと、皆様から多くの笑顔を引き出し、今以上の良い気をいただけよう努力いたしますので今後ともよろしくお願いいたします。ちなみに私たちが鍼灸師でもありますので、気についてはある程度プロです。（笑）

東部あれこれ

今年の一月から三月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。



新成人へお祝いの挨拶 <有馬院長>

元旦は穏やかに初日の出を拝むことができ今年縁起が良いと思っていながら、さにあらず。ノロウィルスの感染により一病棟が病棟閉鎖となってしまうました。でもこのことで、感染予防対策の新たな課題が発見でき、良い教訓になりました。十五日には成人式が行われ、病棟で二名、通所で一名の利用者の方をご家族と共に祝いしました。これからは大人の仲間入りです。三人とも凛々しく振舞っていました。

【二カ】

異常気象のせいでしょう。八日、十五日と二週続けて大雪に見舞われました。交通機関が乱れて職員は大変な思いをしました。利用者は久しぶりの雪で喜んでいました。中庭に雪だるまもできました。十二日に今年度二回目の総合防災訓練を行い、呼吸器を着けた方の避難訓練も試みました。いろいろな課題が見えた訓練で、今後はより実戦的な訓練が必要だと感じました。



総合防災訓練 <消火器演習>

【三カ】

ソチで二月の冬季オリンピックが続くパリリンピックが行われ、日本選手活躍に一喜一憂、大きな感動をいただきました。また、センターの玄関には立派な雛人形が飾られ、各病棟、通所でひな祭りが行われました。女の子だけでなく男の子も健やかな成長をお祝いしました。

十九日にはかもめ分教室の卒業を祝う会が、また二十八日には乳幼児通所あればの卒園式が行われ、四月からそれぞれ次のステップに進んでいきました。

編集後記

桜の花からツツジ、ハナミズキへと春の色が移ろいでいく季節でもあります。春は別々の季節でもあり出会う季節も芽生える季節でもあります。センターでは、有馬院長から加我院長へとバトンが引き継がれました。加我院長を中心とした職員が一致協力し、新たな希望を膨らませていきたいと思います。

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

